

平成19年11月19日

松原・下釜ダム水源地域ビジョン実践センター
松原ダム周辺分科会

「南部 山ん道づくり」を行いました！

松原ダムでは、平成14年度より「水源地域ビジョン」により、松原ダム周辺地域の活性化に向けた取り組みを、大山町西大山の南部地区※の皆さんと協同で行っています。

いままで、「水源地域ビジョン実践センター松原ダム周辺分科会（以下分科会）」において、様々な地域活性化のメニューが提案されてきましたが、そのメニューの1つである「南部地区に古くからある山道を整備して、トレッキングコース※₂として活用しよう」という取り組みを、平成19年11月4日（日）に「南部 山ん道づくり」として1部のルートづくり（約3km）を行いました。

当日は、南部地区の方が14名、国土交通省関係が11名、計25名の参加のもと、倒木を切り、雑草を刈り、倒木を利用した階段を造り、道案内の看板等を手書きで作るといった、手作りの「山ん道」づくりを行ないました。

今後は、今回作った「山ん道」を活用した、イベント等を行うと共に、「山ん道の追加」や他のメニューも分科会で実行していく予定です。

※ 「南部地区」とは、日田市大山町西大山の中で、松原ダム周辺の、松原・貫見・汗入場の3地区です。

※₂ 「トレッキング」とは、健康やレクリエーションを目的とした山歩きです。トレッキングコースで、森林浴や山歩き、散策をお楽しみ頂けます。

<問い合わせ先>

国土交通省 九州地方整備局 筑後川ダム統合管理事務所

管理課長 田熊 潤司

TEL:0942-39-6651

松原ダム管理支所長 眞矢 誠一郎

TEL:0973-52-3121

記者発表資料

山ん道の峠付近



急な所に柵を作りました



段差に階段を造りました



ぬかるんだ場所に木で通路を作りました



記者発表資料

倒れていて見栄えの悪かった木を切りました



看板を設置しました。



最後にみんなで記念撮影

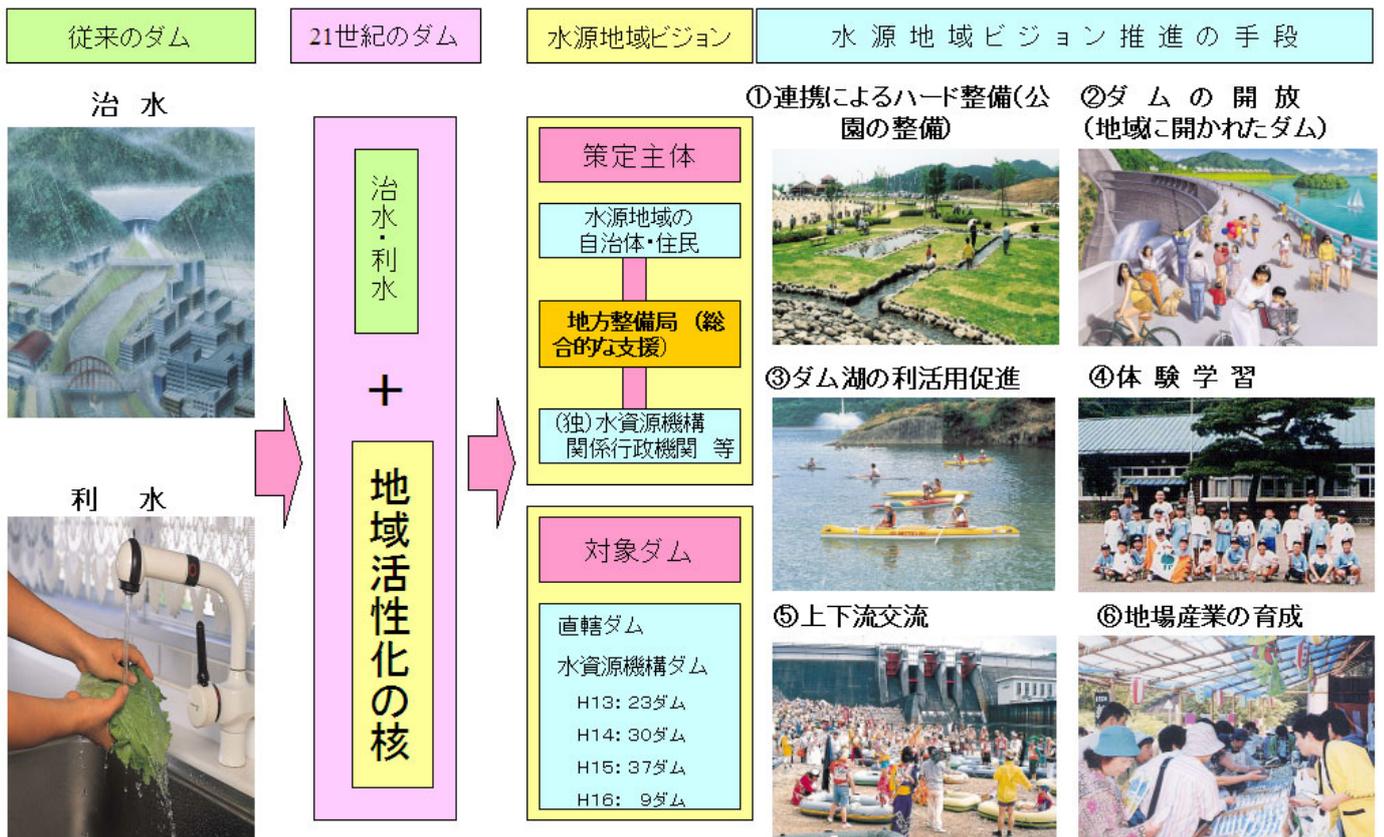


水源地域ビジョンとは

「水源地域ビジョン」は、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的として、ダム水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する水源地域活性化のための行動計画です。

国土交通本省においては、ダム事業を所管する河川局、水源地域対策を所管する水資源部(水源地域対策課)、公園の整備等を所管する都市・地域整備局(公園緑地課)が連携して、支援を行います。

水源地域ビジョン



(参考) 水源地域ビジョン

○主旨

(1)従来、ダムは治水、利水等主に下流地域の国土保全、国民生活の安定、産業経済の発展のために利用されてきました。

(2)21世紀においては、これらのダムの効果に加えて、ダム及び水源地域の豊かな自然、文化等を活用した地域の振興及び、バランスのとれた流域の発展を図ることにより、21世紀のランドデザインの一部分として機能することが期待されます。

(3)このため、国土交通省では、直轄ダム、水資源機構ダムについて、地域ごとに、ダム水源地域の自治体等と共同、更に関係機関と連携並びに下流自治体や住民の参加のもと、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るための「水源地域ビジョン」を策定することとしました。

(4)水源地域ビジョンの策定・推進に当たっては、地方整備局が中心となり、流域住民、関係行政機関等と連携して、総合的な地域支援を実施して行きます。

(5)国土交通本省においては、ダム事業を所管する河川局、水源地域対策を所管する水資源部（水源地域対策課）、公園の整備等を所管する都市・地域整備局（公園緑地課）が連携して、支援を行います。

○水源地域ビジョンの概要

(1)目標

ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図るとともに、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることです。

(2)内容

ダム湖周辺の豊かな水辺と緑を活かした公園整備等地域の特色とダムを活かした連携によるハード整備・ソフト対策を行います。また、水を軸にした地域間交流、地場産業の振興、豊かな自然・文化の提供等も行います。

(3)手法

水源地域ビジョンの策定・推進について、地方整備局が総合調整・支援を行うとともに、関係機関との連携並びに下流自治体や住民の参加のもと、人づくり・啓発活動、相談窓口の設置、情報発信等により水源地域ビジョンの推進を図ります。

○対象ダム

- ・国土交通省所管の直轄ダム、水資源機構ダム